

平成25年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名		栃木県		市町村類型	Ⅱ－１		指定団体等の指定状況		区分		平成25年度(千円)	平成24年度(千円)	区分		平成25年度(千円・%)		平成24年度(千円・%)											
							財政健全化等	×	歳入総額	46,448,970	44,498,309	実質収支比率	7.0	10.5														
市町村名		日光市		地方交付税種地	1-2		財源超過	×	歳出総額	44,325,562	41,351,360	経常収支比率	93.1	92.2														
							首都	×	歳入歳出差引	2,123,408	3,146,949	(※1)	(102.6)	(101.1)														
							近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	343,869	485,752	標準財政規模	25,287,131	25,278,369														
							中部	×	実質収支	1,779,539	2,661,197	財政力指数	0.65	0.65														
							過疎	○	単年度収支	-881,658	262,490	公債費負担比率	14.9	15.8														
人口		22年国調(人)	90,066 <th colspan="3" rowspan="3">産業構造(※5)</th> <th>山振</th> <td>○</td> <th>積立金</th> <td>3,158</td> <td>2,007</td> <th>健全化判断比率</th> <td></td> <td></td>	産業構造(※5)			山振	○	積立金	3,158	2,007	健全化判断比率																
		17年国調(人)	94,291				繰上償還金	-	8,534	実質赤字比率	-	-																
		増減率(%)	-4.5				低開発	×	積立金取崩し額	-	-	連結実質赤字比率	-	-														
住民基本台帳人口(※6)		26.01.01(人)	88,363 <th>区分</th> <th>22年国調</th> <th>17年国調</th> <th>指数表選定</th> <td>○</td> <th>実質単年度収支</th> <td>-878,500</td> <td>273,031</td> <th>実質公債費比率</th> <td>8.2</td> <td>8.6</td>	区分	22年国調	17年国調	指数表選定	○	実質単年度収支	-878,500	273,031	実質公債費比率	8.2	8.6														
		うち日本人(人)	87,809 <th rowspan="2">第1次</th> <th>2,315</th> <th>2,768</th> <th></th> <td></td> <th>将来負担比率</th> <td>53.4</td> <td>51.8</td>	第1次	2,315	2,768			将来負担比率	53.4	51.8																	
		25.03.31(人)	89,129 <th>5.3</th> <th>5.8</th> <th></th> <td></td> <td></td> <td></td>		5.3	5.8																						
		うち日本人(人)	88,596 <th rowspan="2">第2次</th> <th>12,549</th> <th>13,795</th> <th></th> <td></td> <td></td> <td></td>	第2次	12,549	13,795																						
		増減率(%)	-0.9 <th>28.5</th> <th>28.7</th> <th></th> <td></td> <td></td> <td></td>		28.5	28.7																						
うち日本人(%)	-0.9 <th rowspan="2">第3次</th> <th>29,102</th> <th>31,412</th> <th></th> <td></td> <td></td> <td></td>	第3次	29,102	31,412																								
面積(k㎡)	1449.87 <th>66.2</th> <th>65.3</th> <th></th> <td></td> <td></td> <td></td>		66.2	65.3																								
人口密度(人/㎢)		62 <th colspan="4"></th> <th></th> <td></td> <th>基準財政収入額</th> <td>10,898,702</td> <td>11,036,705</td> <th colspan="3" rowspan="5">資金不足比率(※4)</th> <th rowspan="5"></th> <th rowspan="5"></th>							基準財政収入額	10,898,702	11,036,705	資金不足比率(※4)																
世帯数(世帯)		33,926 <th colspan="4"></th> <th></th> <td></td> <th>基準財政需要額</th> <td>17,061,135</td> <td>17,163,664</td>							基準財政需要額	17,061,135	17,163,664																	
									標準税収入額等	14,048,664	14,241,110																	
									経常経費充当一般財源等	24,178,275	23,832,695																	
									歳入一般財源等	32,080,778	31,263,616																	
職員の状況										地方債現在高	50,638,150	48,793,262																
特別職等	区分		定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等	区分		職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	うち公的資金	29,026,406	28,286,069															
	市区町村長		1	9,600 <th colspan="2">一般職員</th> <td>965</td> <td>3,125,635</td> <td>3,239</td> <th>債務負担行為額(支出予定額)</th> <td>6,699,123</td> <td>7,444,325</td> <th colspan="3"></th> <th colspan="3"></th>		一般職員		965	3,125,635	3,239	債務負担行為額(支出予定額)	6,699,123	7,444,325															
	副市区町村長		1	7,600 <th colspan="2">うち消防職員</th> <td>189</td> <td>575,694</td> <td>3,046</td> <th>収益事業収入</th> <td>-</td> <td>-</td> <th colspan="3"></th> <th colspan="3"></th>		うち消防職員		189	575,694	3,046	収益事業収入	-	-															
	教育長		1	6,750 <th colspan="2">うち技能労務職員</th> <td>77</td> <td>245,091</td> <td>3,183</td> <th>土地開発基金現在高</th> <td>500,985</td> <td>500,831</td> <th colspan="3"></th> <th colspan="3"></th>		うち技能労務職員		77	245,091	3,183	土地開発基金現在高	500,985	500,831															
	議会議長		1	4,900 <th colspan="2">教育公務員</th> <td>8</td> <td>32,104</td> <td>4,013</td> <th>積立金現在高</th> <td>4,448,531</td> <td>4,445,373</td> <th colspan="3"></th> <th colspan="3"></th>		教育公務員		8	32,104	4,013	積立金現在高	4,448,531	4,445,373															
	議会副議長		1	4,100 <th colspan="2">臨時職員</th> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <th>減債基金</th> <td>1,164,579</td> <td>1,162,516</td> <th colspan="3"></th> <th colspan="3"></th>		臨時職員		-	-	-	減債基金	1,164,579	1,162,516															
	議会議員		26	3,800 <th colspan="2">合計</th> <td>973</td> <td>3,157,739</td> <td>3,245</td> <th>その他特定目的基金</th> <td>4,762,992</td> <td>4,586,332</td> <th colspan="3"></th> <th colspan="3"></th>		合計		973	3,157,739	3,245	その他特定目的基金	4,762,992	4,586,332															
						ラスパイレース指数			98.8																			
一般会計等の一覧																												
項番		会計名		事業会計の一覧		項番		会計名		公営企業(法適)の一覧		項番		会計名		公営企業(法非適)の一覧		項番		組合等名		地方公社・第三セクター等一覧		項番		団体名		(※3)
(1)		一般会計		(5)		国民健康保険事業特別会計		(8)		水道事業会計		(9)		公設地方卸売市場事業特別会計		(13)		栃木県市町村総合事務組合(一般会計)		(17)		日光市公共施設振興公社						
(2)		診療所事業特別会計		(6)		介護保険事業特別会計						(10)		下水道事業特別会計		(14)		栃木県市町村総合事務組合(特別会計)		(18)		日光市農業公社						
(3)		自家用有償バス事業特別会計		(7)		後期高齢者医療事業特別会計						(11)		温泉事業特別会計		(15)		栃木県後期高齢者医療広域連合(一般会計)		(19)		オアシス今市						
(4)		公共用地先行取得事業特別会計										(12)		銅山観光事業特別会計		(16)		栃木県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)		(20)		日光市土地開発公社						○
																				(21)		小杉放菴記念日光美術館						
																				(22)		鬼怒川川治温泉観光開発						

(注釈) ※1：経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
※5：産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。
※6：住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載している。

(I) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）					地方税の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	13,424,428	28.9	12,972,367	55.1	普通税	12,613,675	94.0	148,450	
地方譲与税	417,198	0.9	417,198	1.8	法定普通税	12,613,675	94.0	148,450	
利子割交付金	18,910	0.0	18,910	0.1	市町村民税	4,628,222	34.5	148,450	
配当割交付金	36,357	0.1	36,357	0.2	個人均等割	133,029	1.0	-	
株式等譲渡所得割交付金	58,421	0.1	58,421	0.2	所得割	3,578,855	26.7	-	
地方消費税交付金	879,080	1.9	879,080	3.7	法人均等割	306,100	2.3	49,605	
ゴルフ場利用税交付金	103,961	0.2	103,961	0.4	法人税割	610,238	4.5	98,845	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	7,101,800	52.9	-	
自動車取得税交付金	126,843	0.3	126,843	0.5	うち純固定資産税	6,808,205	50.7	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	178,875	1.3	-	
地方特例交付金	34,007	0.1	34,007	0.1	市町村たばこ税	704,612	5.2	-	
地方交付税	10,653,880	22.9	8,818,583	37.4	鉱産税	166	0.0	-	
普通交付税	8,818,583	19.0	8,818,583	37.4	特別土地保有税	-	-	-	
特別交付税	1,595,344	3.4	-	-	法定外普通税	-	-	-	
震災復興特別交付税	239,953	0.5	-	-	目的税	810,753	6.0	-	
（一般財源計）	25,753,085	55.4	23,465,727	99.6	法定目的税	810,753	6.0	-	
交通安全対策特別交付金	10,348	0.0	10,348	0.0	入湯税	358,692	2.7	-	
分担金・負担金	198,585	0.4	-	-	事業所税	-	-	-	
使用料	597,257	1.3	27,297	0.1	都市計画税	452,061	3.4	-	
手数料	177,707	0.4	-	-	水利地益税等	-	-	-	
国庫支出金	5,523,399	11.9	-	-	法定外目的税	-	-	-	
国有提供交付金（特別区財調交付金）	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-	
都道府県支出金	2,513,407	5.4	-	-	合計	13,424,428	100.0	148,450	
財産収入	139,197	0.3	48,357	0.2					
寄附金	13,168	0.0	-	-					
繰入金	174,712	0.4	-	-					
繰越金	3,146,949	6.8	-	-					
諸収入	1,955,256	4.2	4,030	0.0					
地方債	6,245,900	13.4	-	-					
うち減収補填債（特例分）	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	2,419,800	5.2	-	-					
歳入合計	46,448,970	100.0	23,555,759	100.0					

区分		平成25年度	平成24年度
徴収率 （％） 現・計 年	合計	96.1	85.7
	市町村民税	96.8	90.6
	純固定資産税	95.1	81.6
		96.2	83.9
		96.8	89.5
		95.5	79.7

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	4,145,607	実質収支	381,453
下水道	877,608	再差引収支	85,888
上水道	105,946	加入世帯数（世帯）	15,115
観光施設	18,394	被保険者数（人）	26,022
市場	14,200	被保険者 1人当り	保険税（料）収入額 97 国庫支出金 94 保険給付費 265
国民健康保険	831,608		
その他	2,297,851		

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	4,145,607	実質収支	381,453
下水道	877,608	再差引収支	85,888
上水道	105,946	加入世帯数(世帯)	15,115
観光施設	18,394	被保険者数(人)	26,022
市場	14,200	被保険者 1人当り	保険税(料)収入額 97
国民健康保険	831,608		国庫支出金 94
その他	2,297,851		保険給付費 265

歳出の状況（単位 千円・％）					
目的別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額（A）	構成比	（A）のうち普通建設事業費	（A）のうち充当一般財源等	
議会費	328,012	0.7	4,531		328,012
総務費	5,325,222	12.0	237,767		4,790,217
民生費	11,670,635	26.3	90,014		6,915,870
衛生費	3,908,968	8.8	1,073,015		2,656,688
労働費	193,017	0.4	-		35,825
農林水産業費	1,169,253	2.6	644,642		575,803
商工費	2,834,609	6.4	237,942		1,302,294
土木費	5,560,014	12.5	3,640,104		2,667,891
消防費	3,016,595	6.8	1,399,699		2,112,655
教育費	4,629,511	10.4	1,370,839		3,333,994
災害復旧費	673,517	1.5	-		449,123
公債費	5,016,209	11.3	-		4,788,998
諸支出費	-	-	-		-
前年度繰上充用金	-	-	-		-
歳出合計	44,325,562	100.0	8,698,553		29,957,370

性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	19,834,295	44.7	15,261,515	15,206,013	58.5
人件費	8,520,310	19.2	8,120,354	8,065,876	31.1
うち職員給	5,685,441	12.8	5,420,826	-	-
扶助費	6,297,776	14.2	2,352,163	2,351,939	9.1
公債費	5,016,209	11.3	4,788,998	4,788,198	18.4
元利償還金	5,016,094	11.3	4,788,883	4,788,083	18.4
内訳	うち元金	9.9	4,218,872	4,218,072	16.2
うち利子	615,082	1.4	570,011	570,011	2.2
一時借入金利子	115	0.0	115	115	0.0
その他の経費	15,119,197	34.1	11,882,432	8,972,262	34.5
物件費	6,439,440	14.5	5,409,355	4,687,489	18.0
維持補修費	603,900	1.4	505,298	505,298	1.9
補助費等	2,242,783	5.1	1,950,297	1,245,332	4.8
うち一部事務組合負担金	33,746	0.1	33,746	33,746	0.1
繰出金	4,039,661	9.1	3,623,693	2,534,143	9.8
積立金	353,578	0.8	309,999	-	-
投資・出資金・貸付金	1,439,835	3.2	83,790	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	9,372,070	21.1	2,813,423		
うち人件費	257,282	0.6	257,282		
内訳	普通建設事業費	8,698,553	19.6	2,364,300	
うち補助	4,009,683	9.0	248,974		
うち単独	4,595,046	10.4	2,100,423		
災害復旧事業費	673,517	1.5	449,123		
失業対策事業費	-	-	-		
歳出合計	44,325,562	100.0	29,957,370		

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	46,337	44,219	2,118	1,774	184	50,604	
2 診療所事業特別会計	120	117	3	3	16	15	
3 自家用有償バス事業特別会計	51	49	2	2	35	19	
4 公共用地先行取得事業特別会計	152	152	-	-	-	-	
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							実質赤字額
計 一般会計等(純計)	46,449	44,326	2,123	1,780		50,638	-

※一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	資金不足比率	備考
1 国民健康保険事業特別会計	10,921	10,535	386	386	722	13	1	-	
2 介護保険事業特別会計	6,270	6,087	182	182	845	-	-	-	
3 後期高齢者医療事業特別会計	975	969	7	7	219	-	-	-	
4 水道事業会計	2,063	1,950	113	2,295	106	10,042	984	-	法適用企業
5 公設地方卸売市場事業特別会計	20	17	3	3	14	4	3	-	法非適用企業
6 下水道事業特別会計	2,850	2,797	53	53	878	17,989	11,855	-	法非適用企業
7 温泉事業特別会計	79	77	2	2	24	-	-	-	法非適用企業
8 鋼山観光事業特別会計	98	72	26	23	-	-	-	-	法非適用企業
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									
51									
52									
53									
54									
55									
56									
57									
58									
59									
60									
61									
62									
63									
64									
65									
66									
67									
68									
69									
70									
71									
72									
73									
74									
75									
76									
77									
78									
79									
80									
81									
82									
計 公営企業会計等				2,951		28,048	12,843		連結実質赤字額 -

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等負担見込額	備考
1 栃木県市町村総合事務組合(一般会計)	16,031	15,928	103	103	5	-	-	
2 栃木県市町村総合事務組合(特別会計)	34	33	1	1	2	-	-	
3 栃木県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	122	101	22	22	1	-	-	
4 栃木県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	188,417	181,448	6,969	6,969	1,333	-	-	
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
計 一部事務組合等				7,095		-	-	

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は正味財産	当該団体からの出資金	当該団体からの補助金	当該団体からの貸付金	当該団体からの債務保証に係る債務残高	当該団体からの損失補償に係る債務残高	一般会計等負担見込額	備考
1 日光市公共施設振興公社	▲ 9	116	30	12	-	-	-	-	
2 日光市農業公社	▲ 3	43	20	9	8	-	-	-	
3 オアシス今市	▲ 2	66	45	17	-	-	-	-	
4 ○ 日光市土地開発公社	0	76	5	0	-	-	-	-	
5 小杉放電記念日光美術館	▲ 2	48	30	-	-	-	-	-	
6 鬼怒川川治温泉観光開発	16	116	26	18	-	-	-	-	
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									
51									
52									
53									
54									
55									
56									
57									
58									
59									
60									
61									
62									
63									
64									
65									
66									
67									
68									
69									
70									
71									
72									
73									
74									
75									
76									
77									
78									
79									
80									
81									
82									
計 地方公社・第三セクター等			156	56	8	-	-	-	

※地方公共団体が①25%以上出資している法人又は②財政支援を行っている法人を記載している。

※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、○印を付与している。

公債費負担の状況

実質公債費比率（千円・％）				
区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	分母比
元利償還金	5,231.175	5,164.718	5,016.094	23.4
減価基金積立不足算定額	-	-	-	-
満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-
準元利償還金	880.166	895.780	899.712	4.2
公営企業債の元利償還金に対する繰入金	-	-	-	-
組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-
債務負担行為に基づく支出額(公債費に準ずるもの)	51.466	53.826	53.710	0.3
一時借入金の利子	-	-	-	-
合計 (A)	6,162.807	6,114.324	5,969.516	
内訳				
区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	分母比
PFI事業に係るもの	-	-	-	-
いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-
国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-
地方公務員等共済組合に係るもの	27.456	27.683	27.773	0.1
社会福祉法人の施設建設費に係るもの	9.191	9.053	8.914	0.0
損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
その他上記に準ずるもの	12.040	14.636	14.456	0.1
利子補給に係るもの	2.779	2.454	2.567	0.0
特定財源の額	(B)	655.616	553.094	562.386
標準財政規模	(C)	24,818.003	25,278.369	25,287.131
算入公債費等の額	(D)	3,596.002	3,725	

(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

平成25年度

栃木県日光市

人	口	88,363	人(H26.1.1現在)						
うち日本人	87,809		人(H26.1.1現在)						
面積	1,449.87	km ²							
歳入総額	46,448,970	千円							
歳出総額	44,325,562	千円							
実質収支	1,779,539	千円							
標準財政規模	25,287,131	千円							
地方債現在高	50,638,150	千円							

実質赤字比率	-	%			
連結実質赤字比率	-	%			
実質公債費比率	8.2	%			
将来負担比率	53.4	%			
市町村類型	H21Ⅱ-1	H22Ⅱ-1	H23Ⅱ-1	H24Ⅱ-1	H25Ⅱ-1
(年度毎)					



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。

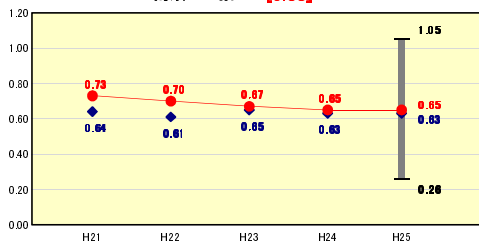
※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。

※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

※住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載している。

財政力

財政力指数 [0.65]



類似団体内順位 86/198

全国平均 0.49

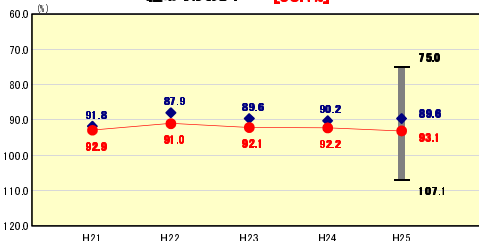
栃木県平均 0.70

財政力指数の分析圖

0.65で、類似団体の平均(0.63)は上回るものの、県内市町の平均(0.70)よりは低く、14市中13番目と低い位置にある。特に、市税の徴収率が85.7と前年度より1.8上昇したものの、14市中13番目と低い位置にあることから、市税の徴収率向上に努めるとともに、企業誘致を推進し、工場などの進出による法人市民税や固定資産税、雇用の場の確保による個人市民税の増収を図ることにより、歳入の確保に努めている。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [93.1%]



類似団体内順位 159/198

全国平均 90.2

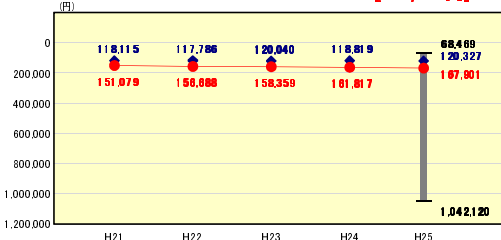
栃木県平均 89.3

経常収支比率の分析圖

広域圏の合併により一部事務組合の事業を引き継ぎ、単独自治体として実施していることや、面積が広く観光施設が点在し、分散型の消防防災体制を整える必要から、類似団体と比較して消防関係職員が多いことなどにより、特に人件費の経常収支比率が高いことから、経常収支比率も類似団体と比較して高い状況にある。過去に借り入れた市債の償還終了により、公債費が減少しているものの、社会保障関係経費の増加による扶助費の増加や、指定管理者制度の導入、クリーンセンター維持管理における包括業務委託の開始による物件費の増加により、前年度と比較し0.9増加した。今後も扶助費の増加は避けられないものと見込まれるため、人件費や、物件費といった経常経費の圧縮により、経常収支比率の削減を図る必要がある。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [167,901円]



類似団体内順位 185/198

全国平均 116,288

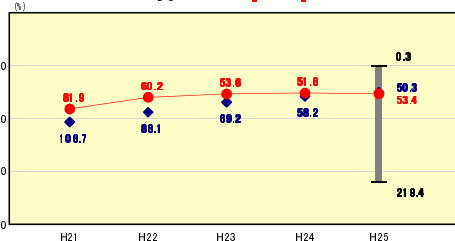
栃木県平均 108,882

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析圖

167,901円で、類似団体の平均(120,327円)や県内市町の平均(108,882円)をともに大きく上回っている。特に、職員数が類似団体と比較して多いため、人口1人当たりの人件費が高くなっている。その理由は、広域圏の合併により一部事務組合の事業を引き継ぎ、単独自治体として実施していることや、面積が広く観光施設が点在し、分散型の消防防災体制を整える必要から、類似団体と比較して消防関係職員が多いことなどが挙げられる。今後、職員定員適正化計画に沿って職員数を削減するとともに、民間でも実施可能な部分は指定管理者制度の導入などにより委託化を進めながら、コストの低減を図っていく。

将来負担の状況

将来負担比率 [53.4%]



類似団体内順位 119/198

全国平均 51.0

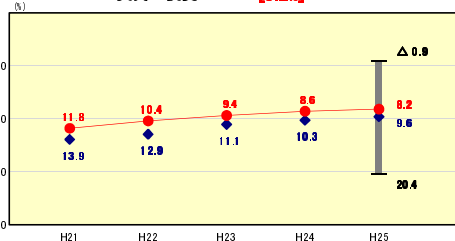
栃木県平均 21.1

将来負担比率の分析圖

53.4で、類似団体の平均(50.3)や県内市町の平均(21.1)をともに上回り、14市中で5番目に高い状況にある。臨時財政対策債や過疎対策事業債のほか、合併振興基金の積立や消防施設整備事業、清掃施設整備事業などの財源として合併特例事業債を活用しており、交付税措置率の高い市債の割合が増えてはいるものの、市債残高は増加しているため、前年度と比較して1.6増加した。地方債への過度な依存は避けなければならないことから、緊急度や住民ニーズを的確に捉えた事業の集中と選択を徹底し、交付税措置のある市債の計画的な活用を図りながら、適正な財政運営に努めていく。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [8.2%]



類似団体内順位 75/198

全国平均 8.6

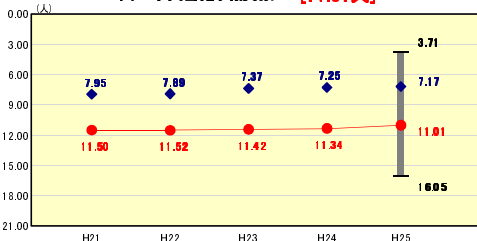
栃木県平均 7.5

実質公債費比率の分析圖

8.2で、類似団体の平均(9.6)は下回るものの、県内市町の平均(7.5)を上回っている。臨時財政対策債や過疎対策事業債のほか、消防施設整備事業や清掃施設整備事業などの大型事業に伴う合併特例事業債の発行額は増えているが、これらの起債は交付税措置の割合が高いため、比率への影響が少ないことや、厚生福祉施設整備事業債や臨時地方道整備事業債などの償還終了により元利償還金の額が減ったことなどから、前年度より0.4低下した。今後、緊急度や住民ニーズを的確に捉えた事業の選択と集中を徹底し、交付税措置のある市債の計画的な活用を図りながら、適正な財政運営に努めていく。

定員管理の状況

人口千人当たり職員数 [11.01人]



類似団体内順位 190/198

全国平均 6.96

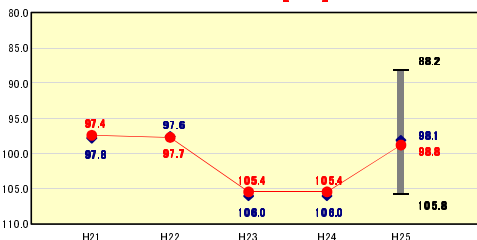
栃木県平均 6.80

人口千人当たり職員数の分析圖

平成18年の2市2町1村の市町村合併に伴い、広範囲な市域の行政サービスを低下させないようにするため、総合支所方式を採用し、地域の行政拠点施設としていることに加え、消防防災体制も分散型としていることから、他の類似団体に比べ事務職員や消防関係職員が多くなっている。そのため、平成18年度以降、職員定員適正化計画に基づき、退職者補充率の抑制などにより、職員数の削減を行い、平成26年4月時点で、平成18年4月に比べ236人(普通会計ベース)の職員を削減した。今後は、平成27年度に策定予定の新たな職員定員適正化計画に基づき、より適切な定員管理に努めていく。

給与水準（国との比較）

ラスパイレス指数 [98.8]



類似団体内順位 120/198

全国市平均 98.6

全国町村平均 95.6

ラスパイレス指数の分析圖

市町村合併に伴う給料格差是正のための昇給調整により平成18年以降ラスパイレス指数が急激に下降し、平成20年以降、概ね横ばいで推移している(国家公務員の時限的な給与改定特例法による措置がないとした場合)。55歳以上の原則昇給停止や昇格制度の見直しや理給保障の段階的廃止など国と同等の措置を行う中で、職務・職責に応じた給料表への移行(7級制→8級制)を実施したことにより全国平均を若干上回るようになった。今後も、より一層の給与の適正化を図るとともに人件費の縮減に努めていく。

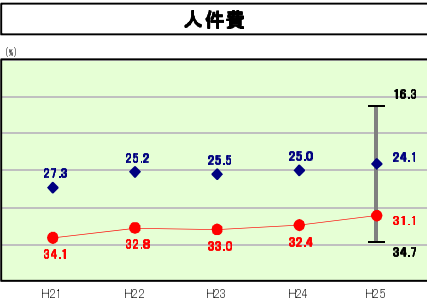
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

経常収支比率の分析

人口	88,363	人(H26.1.1現在)			
うち日本人	87,809	人(H26.1.1現在)			
面積	1,449.87	km ²			
歳入総額	46,448,970	千円	実 質 赤 字 比 率	-	%
歳出総額	44,326,562	千円	連結実質赤字比率	-	%
実質収支	1,779,539	千円	実 質 公 債 費 比 率	8.2	%
標準財政規模	25,287,131	千円	将来負担比率	53.4	%
地方債現在高	50,838,150	千円	市 町 村 類 型	H21Ⅱ-1H22Ⅱ-1H23Ⅱ-1	
			(年 度 毎)	H24Ⅱ-1H25Ⅱ-1	

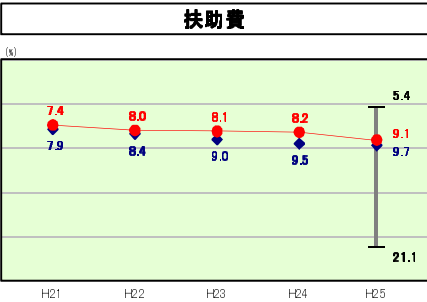


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである、当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載している。



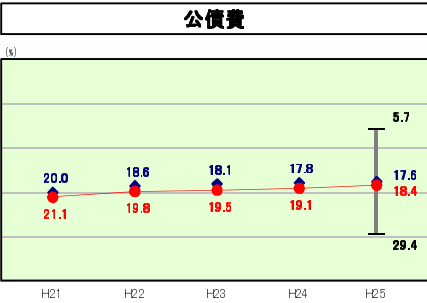
人件費の分析概

職員数が類似団体と比較して多いことから、人件費に係る経常収支比率が高くなっている。その理由は、広域圏の合併により一部事務組合の事業を引き継ぎ、単独自治体として実施していることや、面積が広く観光施設が点在し、分散型の消防防災体制を整える必要がある。類似団体と比較して消防関係職員が多いことが挙げられる。そのため、平成18年度以降、職員定員適正化計画に基づき、退職者補充率の抑制などにより、職員数の削減を行い、平成26年4月時点で、平成18年4月に比べ236人(普通会計ベース)の職員を削減した。今後は、平成27年度に策定予定の新たな職員定員適正化計画に基づき、より適切な定員管理を行い、人件費の抑制に努めていく。



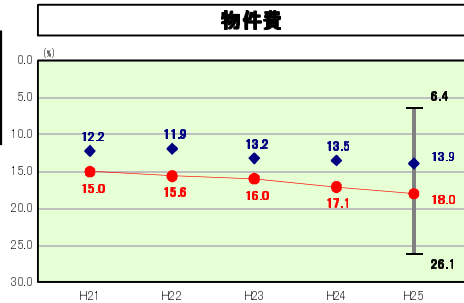
扶助費の分析概

扶助費に係る経常収支比率は、類似団体や県内市町と比較するとやや低い状況にあるものの、高齢化の進行や生活保護費の増、市独自の社会保障施策の実施などから増加傾向にある。そのため、今後、単独扶助費の見直しや資格審査などの適正化を図ることにより、上昇を抑制していく必要がある。



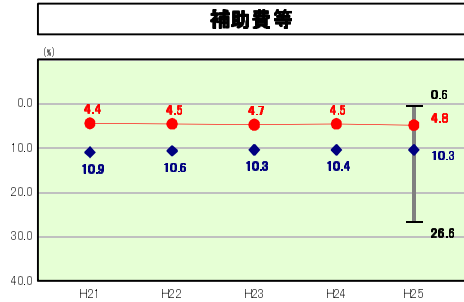
公債費の分析概

公債費に係る経常収支比率については減少傾向にあるものの、広域合併により一部事務組合の地方債を引き継いだことや、合併特例事業債や過疎対策事業債などの活用により、類似団体や県内市町と比較して高い状況にある。消防施設整備事業などの大型事業により合併特例事業債の発行が多額であることや、臨時財政対策債の発行が増加していることなどから、公債費はしばらく高止まりする見込みである。しかし、地方債への過度な依存は避けなければならないことから、緊急度や住民ニーズを的確に捉えた事業の集中と選択を徹底し、交付税措置のある市債の計画的な活用を図りながら、適正な財政運営に努め、実質公債費比率などの指標の改善を図っていく。



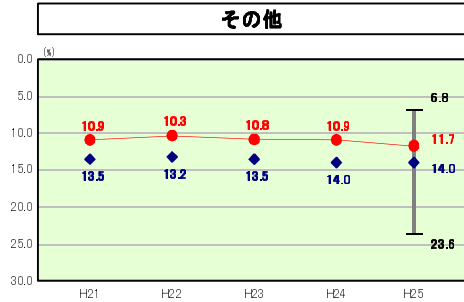
物件費の分析概

広域合併により一部事務組合の施設を引き継いだことや市域が広いこと、また、世界的な観光地を有し市営の観光施設を多く有することなどから、その維持管理に要する費用が大きく、物件費に係る経常収支比率が高くなっている。また、類似団体と比較して職員数が多いため人件費の削減を進めている一方で、民間委託、指定管理者制度の導入を行っていることから、物件費に係る経常収支比率は上昇している。今後も、職員の定員管理適正化を進めていくことから、人件費が減って物件費が増える傾向は続くものと見込まれる。



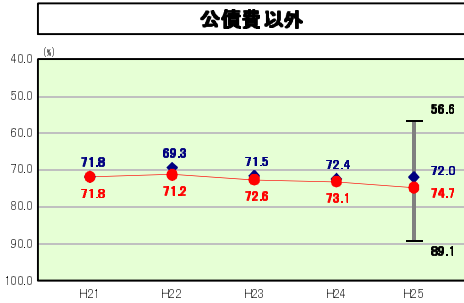
補助費等の分析概

補助費等に係る経常収支比率は、類似団体や県内市町と比較して大幅に低くなっている。これは、広域合併により一部事務組合の事務を引き継いだため、一部事務組合への負担金(補助費等に区分される)が大幅に減少したことによるものである。なお、補助金については、平成18年度に見直し基準を設け、整理合理化を行ったところである。今後も、財政の健全化を進めるため、補助費等を含めた歳出全般の見直しを図っていく。



その他の分析概

維持補修費、投資及び出資金、貸付金、繰出金などに係るその他の経常収支比率は、類似団体や県内市町と比較して低くなっている。これは、主に投資及び出資金や貸付金などに係る比率が低いことが理由として挙げられる。平成25年度は11.7で、前年度より0.8増加しているが、主な理由は、国民健康保険事業特別会計への繰出金が増加したことによるものである。特別会計については、独立採算が原則であることから、財政健全化計画に基づき、基準外繰出を抑制し、適正化を図っている。



公債費以外の分析概

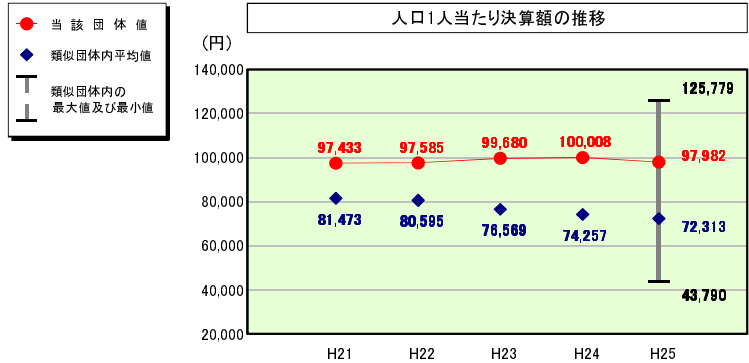
人件費や物件費の経常収支比率が類似団体と比較して高いことから、公債費以外の経常収支比率も類似団体と比較して高い状況にある。過去に借り入れた市債の償還終了により、公債費が減少しているものの、社会保障関係経費の増加による扶助費の増加や指定管理者制度の導入による物件費の増加により、全体の経常収支比率も増加したことから、公債費以外の経常収支比率も前年度と比較し1.6増加した。今後も扶助費の増加は避けられないものと見込まれるため、人件費や物件費といった経常経費の圧縮により、経常収支比率の削減を図る必要がある。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成25年度

栃木県日光市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

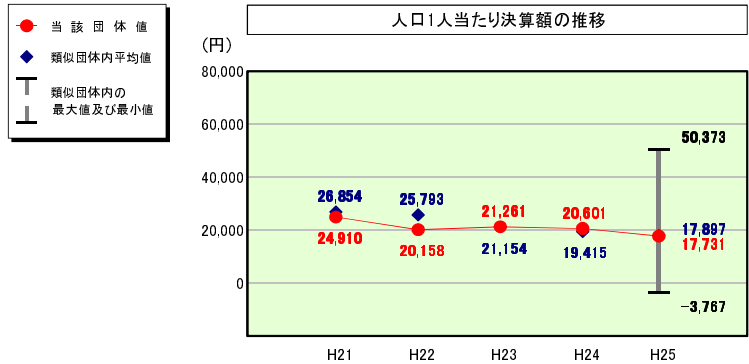
	当該団体決算額 (千円)	当該団体(円)	人口1人当たり決算額 類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	8,520,310	96,424	64,737	48.9
賃金(物件費)	549,166	6,215	4,418	40.7
一部事務組合負担金(補助費等)	13,820	156	5,597	▲97.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	967	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	2	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	302,099	3,419	2,800	22.1
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	257,282	2,912	1,482	96.5
▲退職金	▲984,721	▲11,144	▲7,690	44.9
合計	8,657,956	97,982	72,313	35.5

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	11.01	7.17	3.84
ラスパイレス指数	98.8	98.1	0.7

(注) 住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載している。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

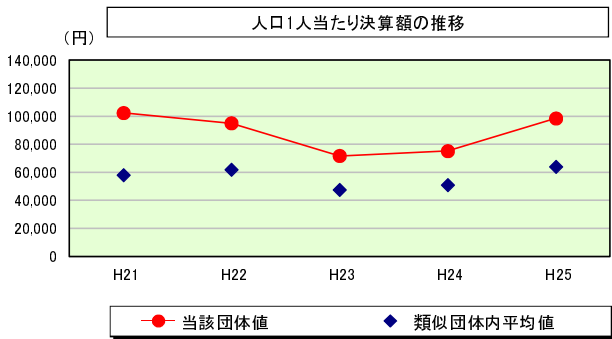


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	当該団体(円)	人口1人当たり決算額 類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	5,016,094	56,767	43,357	30.9
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	5	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	40	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	899,712	10,182	11,850	▲14.1
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	2,171	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	53,710	608	1,425	▲57.3
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	6	-
▲特定財源の額	▲562,386	▲6,364	▲5,332	19.4
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲3,840,338	▲43,461	▲35,626	22.0
合計	1,566,792	17,731	17,897	▲0.9

※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

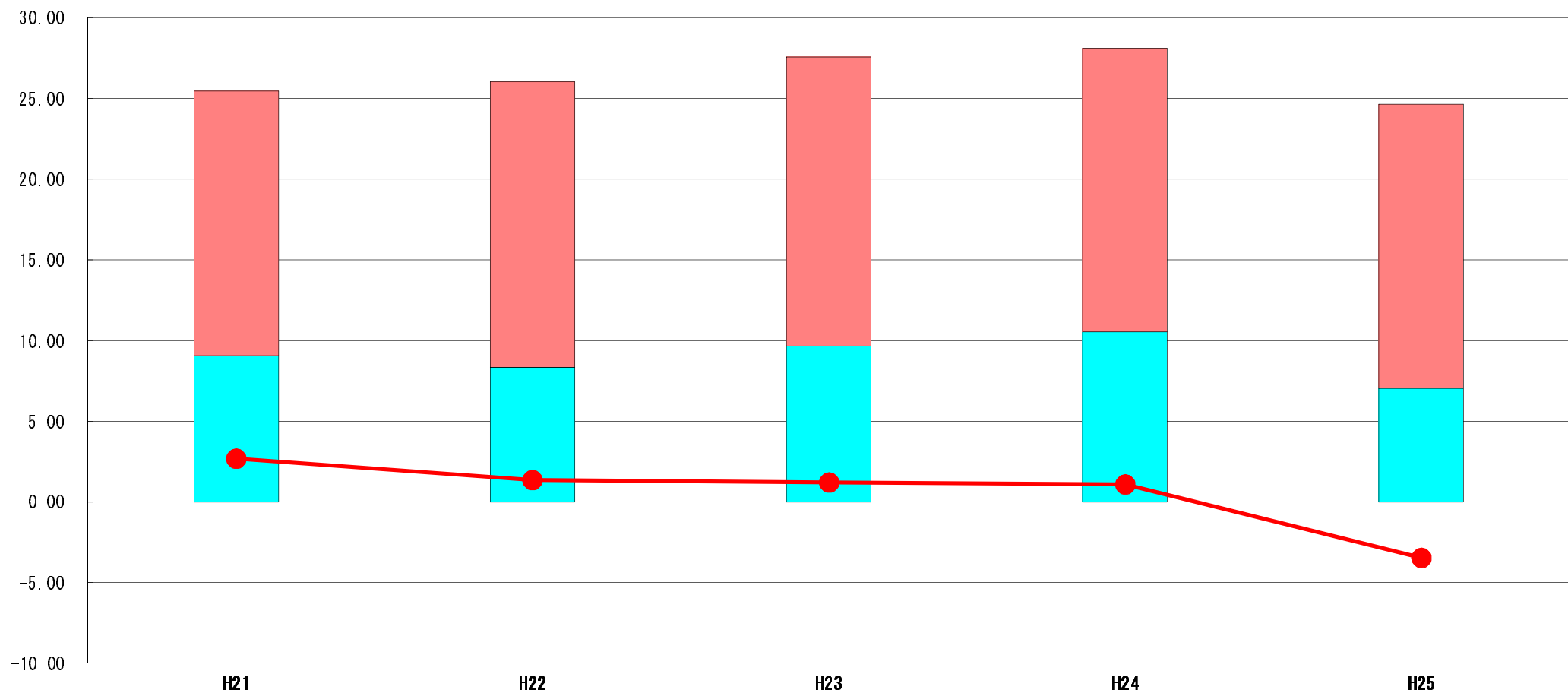
	当該団体決算額 (千円)	当該団体(円)	増減率(%) (A)	人口1人当たり決算額 類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H21	9,436,318	102,373	31.3	58,009	16.5	14.8
うち単独分	3,455,182	37,485	11.5	32,190	20.4	▲8.9
H22	8,654,087	94,982	▲7.2	61,882	6.7	▲13.9
うち単独分	3,390,945	37,217	▲0.7	32,175	0.0	▲0.7
H23	6,438,131	71,620	▲24.6	47,569	▲23.1	▲1.5
うち単独分	4,632,861	51,538	38.5	26,255	▲18.4	56.9
H24	6,697,196	75,140	4.9	50,880	7.0	▲2.1
うち単独分	4,017,949	45,080	▲12.5	26,879	2.4	▲14.9
H25	8,698,553	98,441	31.0	63,956	25.7	5.3
うち単独分	4,595,046	52,002	15.4	29,239	8.8	6.6
過去5年間平均	7,984,857	88,511	7.1	56,459	6.6	0.5
うち単独分	4,018,397	44,664	10.4	29,348	2.6	7.8

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成25年度

栃木県日光市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H21	H22	H23	H24	H25
財政調整基金残高		16.39	17.67	17.90	17.59	17.59
実質収支額		9.06	8.35	9.67	10.53	7.04
実質単年度収支		2.70	1.37	1.22	1.08	▲ 3.47

分析欄

財政調整基金の残高比率については、平成22年度に新規積立（400百万円）を行ったため、前年度より1.28伸びている。それ以外の年度は、新規積立を行わなかったため、ほぼ横ばいで推移している。

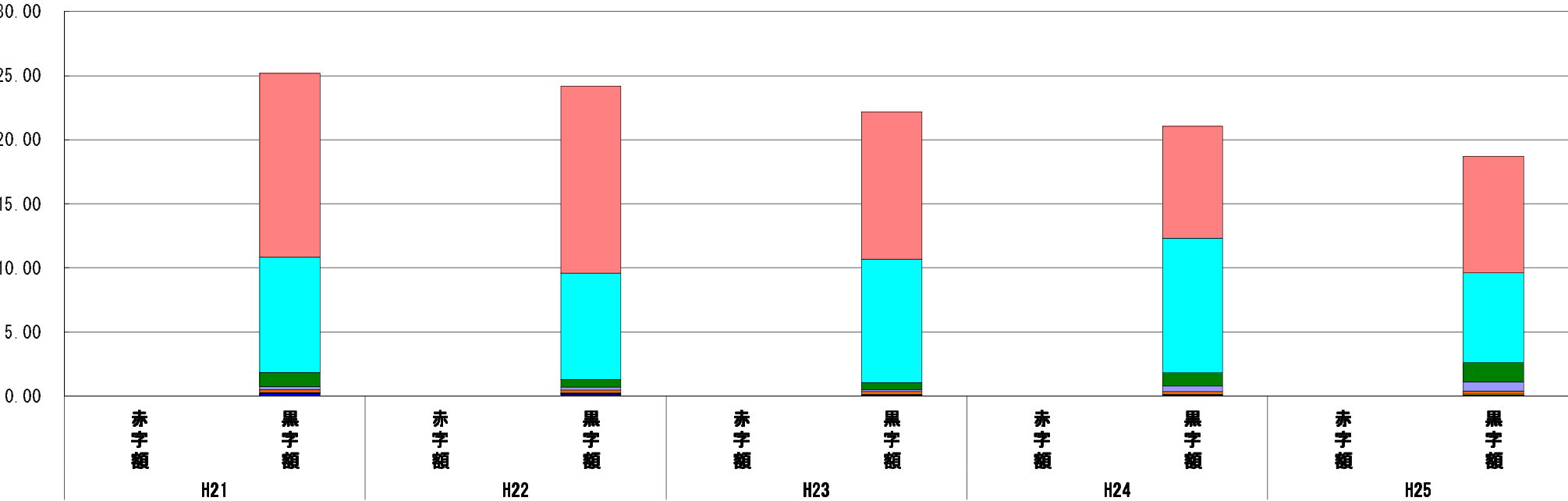
実質収支比率については、平成22年度に減債基金への新規積立や新たな基金の設置などを行ったことにより、前年度より0.71下がっている。平成23・24年度は、市税や交付税、国庫支出金などの歳入が予算額に比べ増額となったことにより伸びている。平成25年度は、国庫支出金などの増はあったものの、普通建設事業費や物件費などの増により3.49下がっている。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成25年度

栃木県日光市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

年度		H21	H22	H23	H24	H25
会計						
水道事業会計		14.34	14.56	11.48	8.71	9.08
一般会計		9.01	8.32	9.64	10.51	7.02
国民健康保険事業特別会計		1.11	0.59	0.53	1.05	1.53
介護保険事業特別会計		0.21	0.21	0.16	0.43	0.72
下水道事業特別会計		0.24	0.25	0.25	0.23	0.21
銅山観光事業特別会計		0.06	0.05	0.03	0.04	0.09
後期高齢者医療事業特別会計		0.03	0.03	0.02	0.02	0.03
公設地方卸売市場事業特別会計		0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.18	0.14	0.05	0.03	0.03

分析欄

平成19年度以降、いずれの年度においても、全ての会計において黒字であり、連結実質赤字額は生じていない。なお、黒字額の割合のほとんどを水道事業会計と一般会計で占めている。平成25年度における実質公債費比率や将来負担比率などの指標については、財政健全化法の基準で見ると、いずれの指標も早期健全化基準を下回っており、早期に健全化のための対応を必要とする状況ではないといえる。しかし、交付税への依存が高いことや地方債の残高が多いことなど、財政状況が厳しいことに変わりはないため、指標の動向などに注意しながら、今後も財政の健全化を図っていく。

※平成25年度の「その他会計（黒字）」の内訳

- 診療所事業特別会計(0.01)
- 自家用有償バス事業特別会計(0.01)
- 温泉事業特別会計(0.01)
- 公共用地先行取得事業特別会計(0)

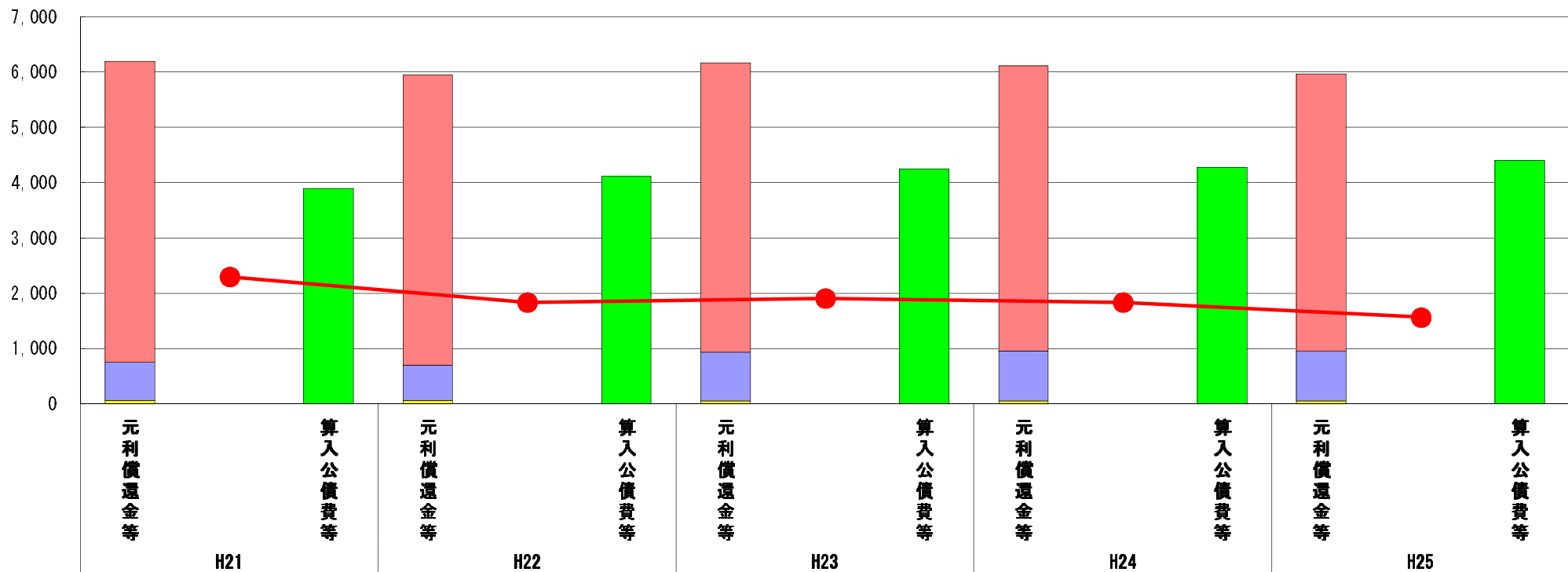
※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成25年度

栃木県日光市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H21	H22	H23	H24	H25
元利償還金等(A)	元利償還金		5,445	5,251	5,231	5,165	5,016
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		689	638	880	896	900
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		62	63	51	54	54
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等(B)			3,898	4,115	4,252	4,279	4,404
(A) - (B)		実質公債費比率の分子	2,298	1,837	1,910	1,836	1,566

分析欄

平成25年度における実質公債費比率の分子は1,566百万円となっている。元利償還金等(A)においては、合併特例事業債や臨時財政対策債の増があるものの、厚生福祉施設整備事業債や臨時地方道整備事業債などの償還終了により、元利償還金は減となっている。元利償還金等から控除する算入公債費等(B)においては、合併特例事業債や臨時財政対策債など交付税措置の割合が高い地方債を活用したため、算入公債費等が増となっている。これらの理由により、実質公債費比率の分子は前年度より270百万円の減となっている。今後、緊急度や住民ニーズを的確に捉えた事業の選択と集中を徹底し、交付税措置のある市債の計画的な活用を図りながら、適正な財政運営に努めていく。

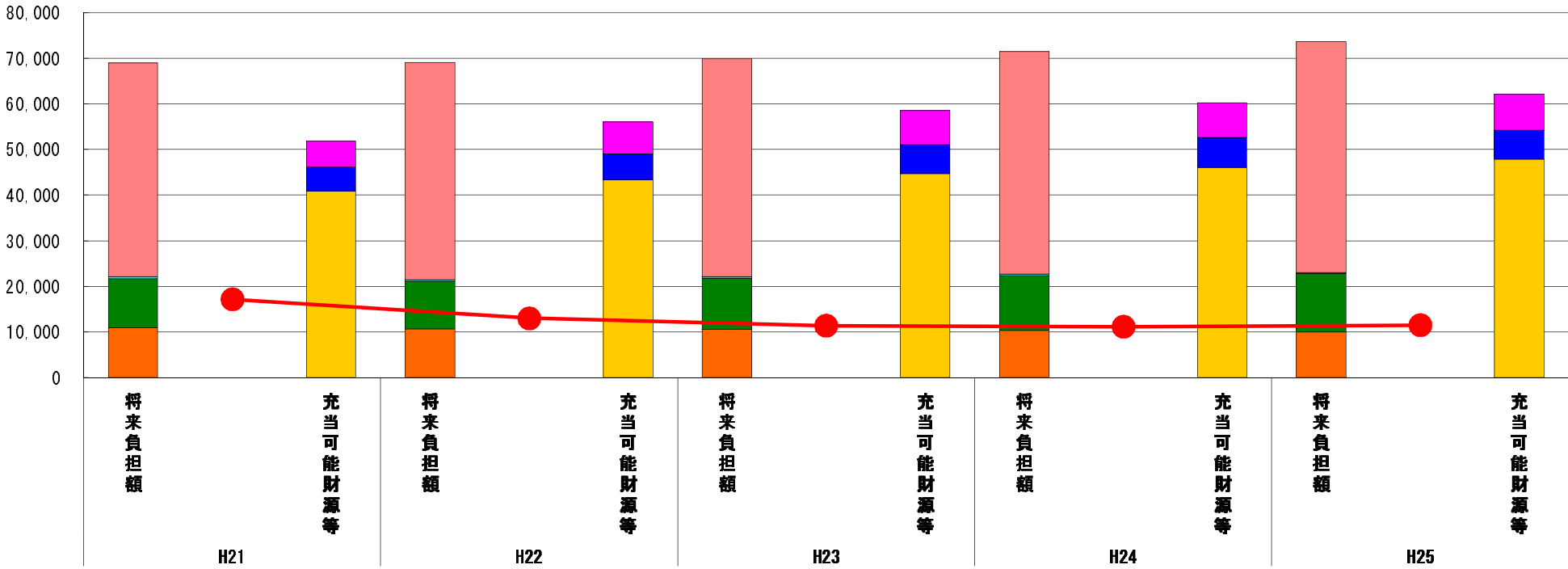
※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成25年度

栃木県日光市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H21	H22	H23	H24	H25
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		46,853	47,676	47,753	48,793	50,638
	債務負担行為に基づく支出予定額		417	356	302	247	191
	公営企業債等繰入見込額		10,844	10,409	11,297	12,020	12,843
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		10,863	10,662	10,529	10,372	9,992
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	9
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		5,645	7,084	7,491	7,665	8,024
	充当可能特定歳入		5,375	5,720	6,266	6,550	6,356
	基準財政需要額算入見込額		40,793	43,276	44,735	46,046	47,835
(A) - (B)			17,162	13,022	11,389	11,171	11,458

分析欄

平成25年度における将来負担比率の分子は11,458百万円となっている。将来負担額(A)においては、合併特例事業債や臨時財政対策債の発行による地方債の現在高の増や、繰出金の見直しによる公営企業債等繰入見込額の増により、2,241百万円の増となっている。一方、将来負担額から控除する充当可能財源等(B)においては、庁舎整備基金などの積立により充当可能基金が増となったことや、合併特例事業債や臨時財政対策債など交付税措置の割合が高い地方債を活用したため、基準財政需要額算入見込額が増となったことにより、1,954百万円の増となっている。これらの理由により、将来負担比率の分子は前年度より287百万円の増となっている。地方債への過度な依存は避けなければならないことから、緊急度や住民ニーズを的確に捉えた事業の選択と集中を徹底し、交付税措置のある市債の計画的な活用を図りながら、適正な財政運営に努めていく。

※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。